

台風を知ろう

台風による猛烈な風や雨は、風水害や土砂災害などを引き起こします。また、近年は鉄道などの計画運休も多く、事前の情報確認が必要不可欠です。



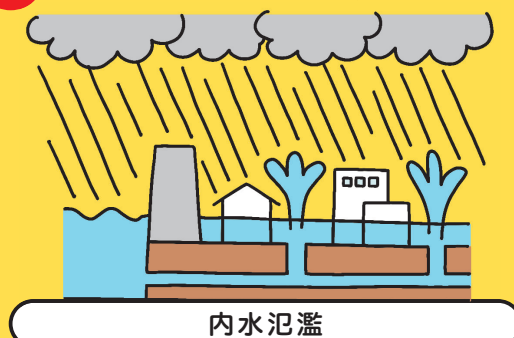
台風の特徴

熱帯の海上で発生する低気圧が発達し、最大風速およそ17m/秒以上になったものを台風と呼び、すさまじい暴風雨により多くの被害をもたらします。台風は接近が予測できるため、事前の対策が重要となります。

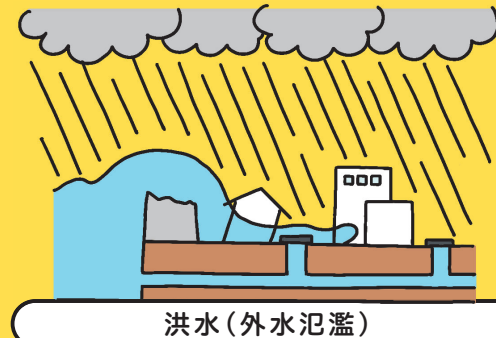
● 台風の強さと被害のめやす

平均風速(m/秒)	予報用語	人への影響	屋外・樹木の様子	車に乗っていて
10以上～15未満	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。	道路の吹き流しの角度が、水平(10m/秒)。高速道路で乗用車が横風に流される感覚を受ける。
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。	小枝が折れる。	高速道路では、横風に流される感覚が大きくなり、通常で運転するのが困難となる。
20以上～25未満	非常に強い風	しっかりと身体を確保しないと転倒する。		車の運転を続けるのは危険な状態となる。
25以上～30未満		立っていられない。屋外での行動は危険。		
30以上	猛烈な風		樹木が根こそぎ倒れ始める。	

！ 激しく雨が降り続けると



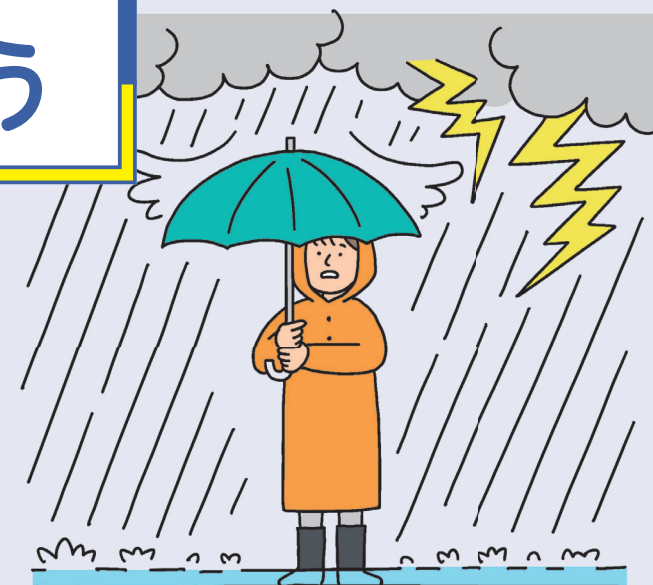
大雨によって排水が追い付かず、用水路やマンホールなどから水があふれだすのが「内水氾濫」です。近年、内水氾濫による被害が増えています。



大雨によって川の水位が上がり、堤防の高さを越え、堤防が壊れて水があふれだすのが「外水氾濫」です。被害がとて大きくなることがあります。

大雨を知ろう

近年、「線状降水帯」や「顕著な大雨に関する情報」という言葉を聞くことが増えています。災害の危険性が急激に高まっている状態で警戒が必要です。



大雨の特徴

地面付近の暖かい空気と上空の冷たい空気が混ざり合い、大気が不安定になることで発生します。長時間続くことで河川氾濫などが起こり甚大な被害が生じることがあります。油断せず、早めの行動を心がけましょう。

● 雨の強さと被害のめやす

1時間の雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20mm	やや強い雨	ザーザーと降る。話し声がよく聞き取れない。	長く続く時は注意が必要。
20～30mm	強い雨	どしゃ降り。傘をさしていても濡れる。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模なけがれがはじまる。
30～50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。通路が川になる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。
50～80mm	非常に激しい雨	滝のように降る。傘はまったく役に立たなくなる。	都市部では地下室に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生。
80mm以上	猛烈な雨	息苦しくなるような、圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

！ こんな大雨には注意



大気の状態が不安定となり、積乱雲が発達し、短時間に狭い範囲で激しく降る雨のこと。



同じ場所に数時間にわたって大量の雨が降ること。河川の氾濫や土砂災害を引き起こします。



数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨のこと。災害発生危険が高まります。